

## 大会長挨拶

日本放射線影響学会第46回大会を平成15年10月6日(日)から10月8日(水)までの3日間にわたり、千年の古都、日本文化のふるさとであり国際文化都市京都で、開催(京都市リサーチパーク)させて頂くことになりました。

8月には4年に一度の第12回国際放射線影響連合(ICRR)の大会がオーストラリアで開催されることもあり、本大会は2年前の大阪大会の様式を真似て、口頭発表は、特別講演・シンポジウム・ワークショップのみとして、一般発表は全て示説(ポスター)で行うことにいたしました。シンポジウム・ワークショップは公募しましたが、COEに選ばれた長崎大学の渡邊正己氏、放射線医学総合研究所の高橋千太郎氏、大阪大学の野村大成氏には、企画や招待者の支援をして頂きました。特に、京都大学放射線生物研究センターの小松賢志並びに丹羽太貫の両氏には、国際シンポジウムの共催および多くの招待者の援助も頂きました。紙面を借りて御礼も申し上げます。

また、野村大成大会長から小野哲也大会長へと引き継がれた国際化に向かったの活動として、アジア諸国からの多くの研究者を招待すると共に、参加、登録、抄録、宿泊など可能な限り電子化、また日本放射線影響学会第46回大会ホームページも開き、広く宣伝いたしました。そのお陰か、招待外人と数名を除き、全て電子登録をしてくださいました。このような国際化を更に推進する試みとして、大会要旨集に英文抄録も一緒に掲載しました。更に、ポスターは全て、英文表記にご協力をお願いいたしました。ICRRの直後なので、学会発表数も減るのではないかと心配いたしました。口頭、示説を含めて340題と例年を上回る発表数になりました。皆様の御協力と熱意に深く感謝いたします。

このように学会幹事、大会実行委員、会員各位の大変なご協力、並びに大会に賛同し寄附を頂きました各位によって、本大会は支えられています。活発な議論により充実した大会にして頂きますようお願いいたします。

2003年10月

日本放射線影響学会第46回大会  
大会長 内海博司